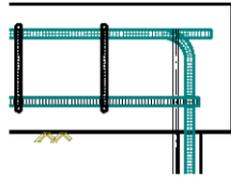
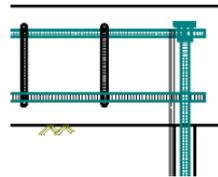


LL補強土工 PN型

LL補強土工 PN型は、プレートナットを補強材頭部に取り付けて定着させる下記の構造になります。施工性が向上します。特に、H型の施工が簡便になります。

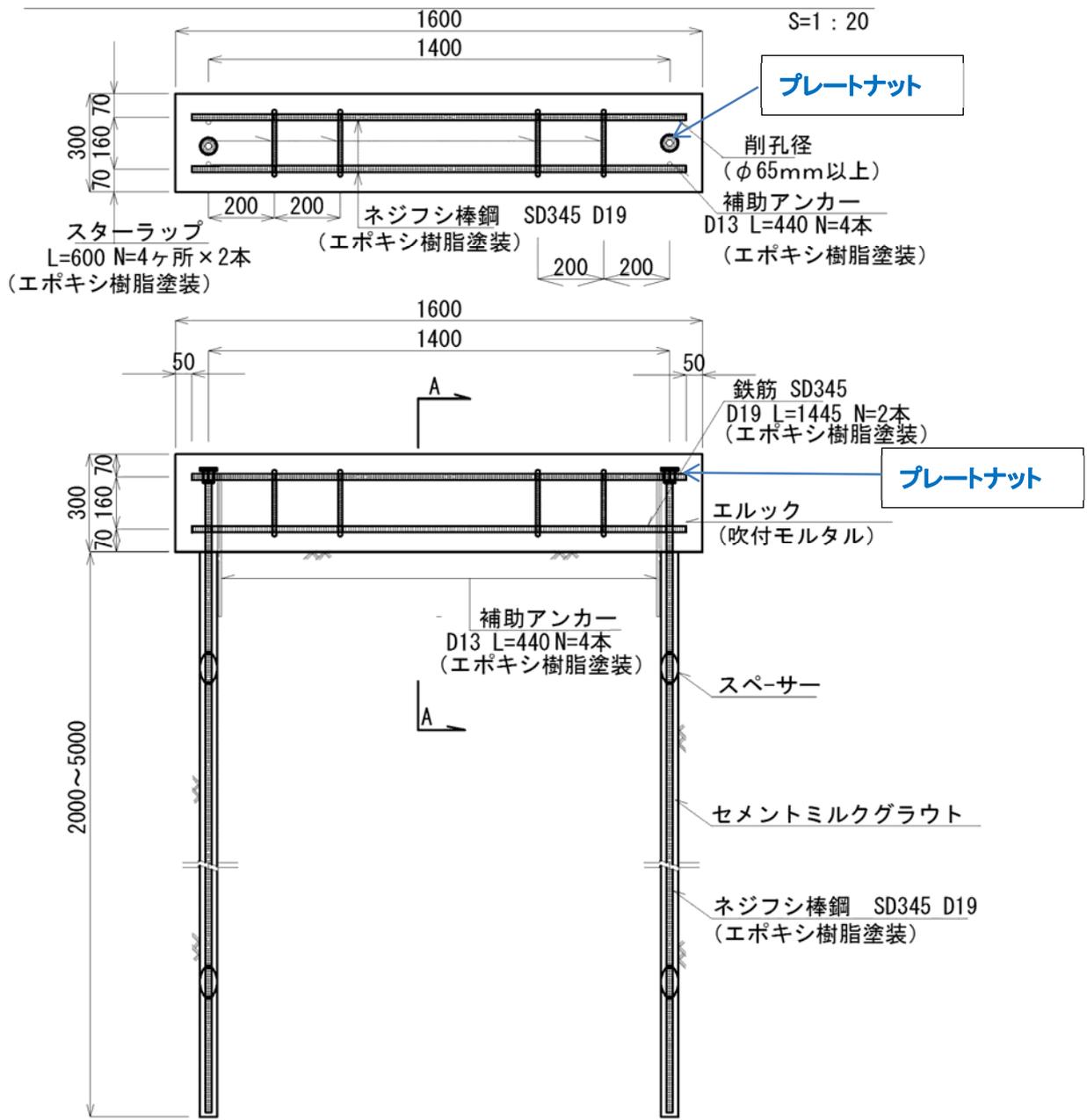


審査証明を得た頭部構造



PN型の頭部構造

L14C PN型補強土工詳細図



PN型のメリットとデメリット

メリット

施工性が向上します。

- ① 補強材を打設した後、のり面工（エルック）部分の吹付金網や鉄筋を平地で組み立て、施工済みの補強材頭部にセットすることも可能です。
- ② 補強材と主筋が別々ですので、補強材の打設方向が平行で無くとも施工できるようになりました。特に補強材の打設方向には余裕があります。
- ③ 二重管削孔でも使用できるようになりました。
- ④ 特にH型の施工が容易になりました。

デメリット

- ① プレートナットを使用する場合は、補強材1本当たり2,000円程度(D19の場合1800円) 資材定価が高くなり、頭部処理費が必要になります。それでも、一般的には、同種の工法に比較すると低コスト～同等の工事費です。
- ② 補強材の定着長とかぶり40mmを確保するために、補強材の頭部付近のみD22で20mm、D25で60mmエルックの高さが増します（D19の場合は、300の枠に収まります）。

プレートナットは、「鉄筋定着・継手指針 土木学会 2007年 p65」で、標準フックと同等以上の定着性能を有すると評価されています。LL補強土工では、建設技術審査証明を取得した型式は、フックで補強材を固定しましたが、PN型では日本建築センターが評定した東京鉄鋼(株)製のプレートナットを使用し補強材をエルック（のり面工）に12Dの定着区間長を確保して固定します。エポキシ樹脂塗装したプレートナットを使用し、ネジの隙間をエポキシ樹脂注入材で固定しますので超耐久性は、これまでと変わりません。D19の補強材から販売開始します。

